



ウラヴァコンダ高等学校の学生であった14歳のとき、若きサティヤは皆にとって神聖な子どもでした。そして、いつも決まって毎週木曜日になると、特別な色の服を着た小さき神様の御姿で、彼が「私の名刺」と呼ぶもの（奇跡）を現しては皆に見せていました。ウラヴァコンダ高等学校の小さきサティヤの先生であったシュリ・マンチラージュ・タンミラージュ教諭の家族は、他の帰依者たちと一緒にその「小さき神様」によって大変祝福されました！ 1963年1月に発刊された『サナータナ サーラティ』誌のシュリ・マンチラージュ・タンミラージュ氏による記事の抜粋を、以下にご紹介いたします。

私たちは神のビジョンを授かった

14歳の少年として、ババがまだウラヴァコンダ高等学校にいたとき、毎週木曜日の夜、だいたい午後4～8時の間に、ババはシルディ・サイ ババになって何百人という帰依者にダルシャンを与え、彼らの祈りに応えました。当時、私は高校教師であり、私もそういった木曜日ごとの恩恵にあずかっていました。

「私の生徒」であったサティヤは、今も彼がそうされているように、当時から手を回してヴィブーティ（神聖灰）を物質化されていました！

しばらく前に、22歳になる私の娘が亡くなり、妻は悲嘆にくれていました。ババはよく私の家に来られては、妻に生と死の問題に関する長い話をしてくださいました。ありがたいことに、ババの思慮あるご奉仕のおかげで、妻はすぐに平常心を取り戻しました。ババの愛に満ちた御言葉は妻の心の動揺をなだめ、神への信仰心を取り戻させたのです。妻が礼拝を捧げた二回目の木曜日、ババは妻にヴィブーティを授けて、

「アンマーイ（お母さん）！ 私はあなたのバクティ（信仰心）を高く評価しています。とても満足しました。来週また来なさい。贈り物を与えましょう」とおっしゃいました。

約束の日、妻が御足にひれ伏した時、ババは身を起こすように言われました。そして、

「アンマーイ！ 私がシルディで最後にサマーディに入るときに身につけていたゲルア〔黄色のローブ〕の一部をあげましょう」と言われ、一瞬手のひらを閉じた後、4インチ（約10センチ）四方の布切れを見せるため、また手のひらを開かれました。

「これを持ち帰って、私の名によってプージャー（礼拝）を行いなさい。来週また来なさい。更なるものをあなたに与えましょう」

ババはそう言って、私たちを送り出されました。大きな喜びのうちに私たちが立ち去ろうとした時、ババは付け加えておっしゃいました。

「これからは幸せでいなさい。あなた方のために、私があなた方の重荷をすべて背負ってあげますから」

次の木曜日、私たちは二人ともババの元へ行って、ナマスカール（合掌）をしました。その日、ババが手のひらを閉じて、また開かれた時、そこには多量のアクシャタ（聖なる米粒）が物質化されていました。

「これを先週与えた布に入れて結び、それを礼拝しなさい。そうすれば、あなたは心の静けさを得ることができます。どんな悲しみの原因も生じることはありませんでしょう。私はあなたに完全なバクティを与えます」と、祝福してくださいました。

5回目の木曜日にも別の奇跡が起こりました。ババは妻に、

「アンマーイ！ ピータ（椅子）をあなたの家の礼拝室に置きなさい。そうすれば、私はそこへ行って直接あなたにダルシャンを与えましょう」と言って、私たちにすぐそのようにさせられました。

私たちは皆、いかにしてクリシュナが兄であるバララーマと共にアルジュナの家に行き、アルジュナと彼の妻にダルシャンを与え、二人に惜しみなく祝福を与えたかを本で読んで知っています。このサティヤ サイも同じです。クリシュナ御自身であり、シルディ サイ御自身であるお方が、この貧しきバクタ（信者）の家へ来られ、彼のマヒマー（奇跡）のビジョンで祝福して下さったのです。私たちはその経験の絶妙なスリルを決して忘れることはできません。

ババはクリシュナ ジャンマーシュタミーとローヒニーデーの二日連続で、私たちの家を訪問されました。その日々のすばらしい経験は、1944年にマドラス（チェンナイ）の全インド・サイ・サマージが出版した『サイ・シュッダ』の中で、妻がカメーシュワランマという名で発表した詩の中に述べられています。私もそれらを詩歌にして、1944年に別の著書として出版した『サイナータ・サッタカム』の中に収めました。

ババは来訪された後、わが家の礼拝室のピータ（椅子）に座り、私たちに礼拝室へ入ってきてババの傍に座るようにおっしゃいました。それから、ババは私たちに様々なご自分の前世のリーラー（戯れ）を見たくないかとお尋ねになりました。私たちがその考えを熱狂的に受け入れたとき、ババはそれらを私たちに見せることを承諾し、家族全員がババの周りに集まりました。ババは私たちに彼をじっと見つめるよう指示され、（あなたなら信じられますか？ あなた自身がそのババの同じ奇跡か、または似たような奇跡を体験するまでは信じられないかもしれませんが…）

私たちは、乳海に浮かぶヴァタパットラー（ベンガル菩提樹の葉）の上に寝そべったナーラーヤナ神の御姿を見て身震いしました。私たちは次から次へと、次の御姿が告げられるのを聞きました。御姿は次々と変化していき、私たちを立て続けに驚かせました。私たちはそれぞれの御姿の美しさと輝かしさを吸収し、ババのサンカルパ（ご意志）の瞬間的な力に心を打たれるだけの十分な時間を与えられました。

私たちのサティヤであるババは、その間ずっとどこにおられたのでしょうか？ ババは、水平線上に浮かぶヴィシュヌ神に鼻を上げて挨拶するガジェンドラ（ヴィシュヌ神に全託した象）となり、木に寄りかかって笛を吹く牛飼いの少年クリシュナとなり、畏怖の念を起こさせる大蛇カリング（頭が5つある大蛇）に乗ったゴーパーラとなり、ラーダー・クリシュナ、ラクシュミー・ナーラーヤナ、パールヴァティー・パラメーシュワラ、そしてサラスワティー・ブラフマーにもなりました。その後、私たちはなんとババがシーター・ラーマになったのを見たのです！ 私たちは「サティヤバーマー」（クリシュナ神妃の一人）の名前を聞き、彼女も見ました。私たちはババの目に見えない呼びかけによるビジョンに恵まれ、ヴィシュヌ神がかつて美しい女神に変じたモーヒニーのビジョン、ナーラーヤナ神を切望するプラフラーダのビジョン、そのすぐ後でナラシンハ（頭がライオンのヴィシュヌ神の化身）がヒランニャカシプ（プラフラーダの父である羅刹王）を殺すビジョン、また、ヴァーマナ（ヴィシュヌ神第5の化身）、パラシュラーマ（ヴィシュヌ神第6の化身）、そして仏陀のビジョンによっても祝福されました。

ババは私たちに、シシュパーラ、セインダーバ、ラークシャサ（悪鬼）たちが殺され、神がパーリジャータ（願望成就の花木：デイゴ）の花を持ってくるシーンも見せてくださいました。その後、光景はパーンドゥランガ神の御姿の一つとなり、それから、ナーラダ聖者と彼の神への恍惚たる賛美へと変わり、次には、ナヴァニータ チョーラ、つまりバターを盗んでいる幼いクリシュナ神の姿となり、その後、邪悪なカウラヴァー族の族長らがアビマンニュ（アルジュナの息子）を殺したシーン、最後に、シルディ サイ ババ御自身の荘厳なムールティ（御姿）へと変化しました。

この神聖な二日間、私たちの目の前で光を放ち、完全なる活力と生命力に満たされたこれらの輝かしい神の御姿の数々を、どうしてひと時たりとも忘れることができるでしょう？

出典：<http://www.theprasanthereporter.org/2013/07/we-had-the-vision-2/Sai>